

高知県の原木生産量（令和6年）の公表について

高知県における令和6年の原木生産量について、お知らせします。

1 高知県の原木生産量（令和6年）について

令和6年の原木生産量は692千 m^3 となり、令和5年と比べると16千 m^3 の減（対前年比98%）となっています。

その需要部門別の内訳は製材用で386千 m^3 、合板等用で34千 m^3 、木材チップ用で118千 m^3 となっています。

また、木質バイオマス関連施設（木材統計調査の対象外）の原木入荷量は154千 m^3 となり、令和5年と比べると1千 m^3 の増となっています。

（単位：千 m^3 ）

区 分		令和5年	令和6年	増減	備考
原木生産量 ① = (a) + (b)		708	692	▲16	
木材統計 (a)	製材用	400	386	▲14	農林水産 省調べ
	合板等用	47	34	▲13	
	木材チップ用※1	108	118	10	
	木質バイオマス関連施設 (b)	153	154	1	
原木	153	154	1		
(参考)枝条等 ②	(9)	(10)	(1)		
(参考)枝条等を含めた生産量 ①+②		(717)	(702)	(▲15)	

※1 木材統計の木材チップ用の数値には、木質バイオマス関連施設への原木の入荷量は含まれていません。

〔集計方法〕

令和7年7月29日に農林水産省により公表された「令和6年木材統計」の素材生産量の調査対象は、製材工場、合単板工場、木材チップ工場、集成材工場、LVL工場及びCLT工場となっています。この統計には、県内2ヶ所で稼働する木質バイオマス発電所等への原木の入荷量が含まれていないため、平成27年から高知県が木質バイオマス関連施設の原木入荷量を調査し、これを加えて高知県全体の原木生産量として公表しています。

2 今後の取り組みについて

本県の令和6年の原木生産量は、全国的な原木需要量の減少※¹から、生産意欲が高まらなかった（皆伐の減少）ことや、再造林面積の増加※²により素材生産に携わる労働力が割かれたことなどから、前年とほぼ横ばいとなったものと考えています。

本県としては、今後増加していく再造林も見据えながら、引き続き森林クラウドの活用や高性能林業機械の導入、効率的な作業システムの構築により、生産性の向上を図ってまいります。

併せて、再造林作業の省力化に向け、低密度植栽や下刈り回数の見直しにより、投下人役の縮減を進めてまいります。

こうした林業・木材産業の活性化につながる施策を着実に実施し、令和9年の原木生産量の目標である850千m³の達成に、取り組んでまいります。

※1 全国の原木生産量及び国産材需要量

令和5年：20,647千m³ → 令和6年：20,090千m³（▲557千m³）

※2 高知県における再造林面積（民有林）

令和5年：294ha → 令和6年：357ha